

集会アピール

人間にとって学力とは何でしょうか？

「全国学力・学習状況調査」が昨年度から小学6年生と中学3年生を対象に行われています。文部科学省は「学力を把握・分析し、改善をはかる」目的で実施していますが、全員参加による一斉調査は、結果の公表による都道府県や市町村、学校の序列イメージをことさら際立たせ、競争の激化を招きかねません。競争をあおるだけのこの調査に、何十億もの予算を使う価値がどこにあるのでしょうか。

子どもたちの生活は、学校・家庭・地域などさまざまなところにあります。しかし、今の社会は点数などすぐに答えが出ることばかり追求しています。その結果、子どもたちは「点数学力」が全てであるかのように思いこまされ、子どもどうしや周りの大人とのつながりを築く力が低下してきています。これは、結果のみを評価基準とする大人社会の反映とは言えないでしょうか。

子どもたちは、興味・関心のあることに熱中します。わたしたち大人に必要とされているのは、子どもたちが喜んでやりたいと思う環境や条件を作り、そして子どもたちが自ら行動するまで忍耐強く待つということではないでしょうか。子どもの考えや行動を大人が先回りして一方的に決めても子どもたちの成長にはつながりません。子どもたちは自分で考えることにより、さまざまな問題解決能力を身につけていきます。

夢を持つ力、友だちや地域の人など多くの人とかがわりあう力、なかまと思いや考えを分かちあう力、世の中の動きを理解し自らの位置を自覚する力などが大切な「学ぶ力」（学力）だと考えます。大人は、子どもたちが「学ぶ」ことをあたたかく見守り、援助する存在であるべきです。そのことによって、子どもたち一人一人は自らの力を自覚し、発揮して成長していきます。

わたしたちは、子どもたちの平和な未来に責任をもつ大人として、これまで以上に学校・家庭・地域でのつながりを強めながら、人権・平和・環境・共生を大切にした教育にとりこんでいきます。自分の言葉と生きる姿勢で、憲法・'47 教育基本法の理念の大切さを訴え続けます。

競争主義を超えて、点数だけではかることのできない子どもたちの力を信じ、大切にしていきましょう！

2008年11月15日

点数だけが学力じゃないー競争主義を超えてー

11.15 教育シンポジウムin石川